

## 2014年度教育留学 研究成果概要

種 別：学院留学（短期）  
所属・職・氏名：国際学部・准教授・王昱  
留 学 課 題：会計教育における日米比較—Book Keeping を中心として  
留 学 期 間：2014年3月27日～2014年9月26日  
留 学 先： 国・都市 アメリカ・シカゴ  
留学機関 DePaul University

### 研究成果概要：

この度、半年の学院留学をさせていただきまして、大変勉強になっております。半年の留学期間を2段階に区分して、学習と研究を行っていました。

留学期間の前半に、留学機関である DePaul University の語学コースを通いながら、MBA コースの国際会計学の講義を聴講させていただきました。

留学期間の後半に、留学課題である“会計教育における日米比較—Book Keeping を中心として”を巡って、アメリカ会計学会への参加、旧アメリカ造幣局の訪問、消費税非課税都市の訪問、ないし現地の大学や図書館の訪問を行いました。また、Bookkeeping の研究成果を生かして、拙稿“The Development of Accounting Standards in China—Mainly on the Basic Standard and the Conceptual Framework”を完成し、「関西学院大学外国語紀要」に投稿させていただきました。

半年の留学期間において、下記の研究成果を取り上げさせていただきます。

#### ① 米国における Bookkeeping の科目設置について

アメリカ国内の大学において、会計基礎や会計入門などの授業を設けていますが、Bookkeeping を単独で設けている大学を見つけませんでした。または、単独で Bookkeeping の教科書も大変少ないのであります。

#### ② 米国における Bookkeeping の教科書について

大学図書館や市民図書館などでの現地調査によれば、Bookkeeping に関する専門教科書を何点ほどありまして、基本的に非会計専門者を対象としているものでした。その代わりに、会計入門書に Bookkeeping の内容が含まれていたり、米国 CPA（公認会計士）試験用教科書や学習書に簡単な説明や解釈があったりとの現状が判明しました。また、教科書の内容が主に Bookkeeping であるのですが、教科書の書名が会計学入門や会計学原理などの表現を用いたことが多いのである。時々、財務会計と管理会計をメインにする教科書にも、複式簿記の内容も簡単に紹介されていることもありました。

③ 世界的（7ヶ国）Bookkeeping の認知度について

留学先では、地元の学生以外に世界各地から来ている留学生との交流を試みました。Bookkeeping に関する簡単なインタビューを行いました。国によって、Bookkeeping への認知度がそれぞれでした。いろいろな原因がありましたが、印象深かったのは、宗教、文化、自然資源の有無でありました。

すなわち、それぞれの国には、自国の宗教を持ち、それに応じてその国の文化が生まれ、さらにその国の特性を持つビジネスモデルが形成されます。さらに、自然資源に恵まれている国とそうでない国では、Bookkeeping や会計がもはや新たな役割を果たしているのではないかと考えております。今後、宗教・文化・会計をテーマに研究を試みたいのです。

④ 留学課題の結論

“会計教育における日米比較—Book Keeping を中心として”を巡って、主に上記の研究などを行っていましたが、結論に至ったのであります。

● Bookkeeping への重視度

アメリカより日本の方がはるかに重視している。

(米国会計事務所に勤務の方より、在米の日本系中小企業・個人企業の経理レベルが極めて高いだというコメントを聞いております。)

● Bookkeeping の教育法

アメリカでは、会計理論と会計技術を一本化にして教育を行っているのにたして、日本では、多くの大学、専門学校の科目設置により、会計理論としての会計学と、会計技術としての簿記学の両側面からの教育が行われています。

● Bookkeeping に関する検定試験

日本では、Bookkeeping に関する様々な検定試験を設けているのに対して、米国では、Bookkeeping より、CPA（公認会計士）の試験に対して、より多くの人が挑戦しているのが現状であります。また、米国では、州毎に試験内容が異なっているため、難易度も異なっているようであります。

⑤ 投稿論文

アメリカでは、上記研究内容を踏まえて、“The Development of Accounting Standards in China—Mainly on the Basic Standard and the Conceptual Framework”を完成して、「関西学院大学外国語紀要」（2015年2月、公刊予定）に投稿しました。

拙稿では、イタリアで生まれた Double Entry Bookkeeping をヨーロッパに伝わり、そして、アメリカ大陸を渡り、さらに、日本を経由して中国に翻訳されたことを現代会計システムの形成に大きな影響を与えたと認識しております。

一部抜粋（原稿より）

“The origins of Western Style Accounting in China date back a century. Particularly, Western Style ‘Double-Entry Bookkeeping’ and Financial Statements were brought to mainland China by students returning home from studying abroad in places such as the United States, Japan, or other countries in the early 20th century.

In modern accounting, Financial Statements are made using the 'Double-Entry Bookkeeping' method. Some of the technical words like 'accounting,' 'bookkeeping,' 'creditor,' and so forth came to China though English books translated into Japanese which were then translated into Chinese. In these cases, many special Japanese accounting words were eventually adopted in China also. Western Style 'Double-Entry Bookkeeping' and accounting standards support the administrative activities of modern companies; however, these were not Chinese intrinsic tools for business.

Thus, the question becomes, "What kind of process influenced Chinese Accounting and where did they come from?" This question will be examined in further detail from a historical point of view. In what follows, the origins of Double-Entry Bookkeeping Accounting will be introduced as well as accounting standards deriving from the following three important Chinese books in chronological order including: Bookkeeping of Banks; Pacioli's Double-Entry System of Bookkeeping; and Introduction to Corporate Accounting Standards “.

#### ⑥ まとめ

6カ月の研究期間でしたが、“会計教育における日米比較—Book Keepingを中心として”という課題を巡って、幾つの側面から現地で調査を行いました。アメリカも日本も経済大国であります、宗教・文化・法規制・商慣習などの背景が異なっているため、Bookkeepingに関する教育はそれぞれの特徴を有していることが理解できました。また、拙稿、“The Development of Accounting Standards in China—Mainly on the Basic Standard and the Conceptual Framework”を完成したことも大きな収穫でした。さらに、研究期間の活動を通じて、今後の研究にもいろいろな潜在的な課題も得ることができたと信じております。

以上

2014年10月6日